

書き言葉におけるコトニナルの 使用実態調査と分析

—日本語教育への示唆

陳 秀茵

◆要旨

本稿は、用法分類の方法、適切な用例の提示など、日本語教科書記述や指導方法の改善のための基礎データを得ることを研究目的とし、書き言葉におけるコトニナルの使用実態を、意味の面と形式の面から調査・分析したものである。その結果、次の4点が明らかになった。1) 「事実の展開」と「予定の決定」用法が最も多く現れている。2) 前接語に関しては、用法ごとに多く用いられる語に特徴が見られる。3) 後接形式にはそれほど特徴的と言えるものがないが、話し言葉に比べてワケダの出現率が極めて低いのに対してノダの出現率が高い。4) また、日本語教育でしばしば導入される「意志的な予定の決定」用法はそれほど多く用いられていない。

◆キーワード

コトニナル、意志的な予定の決定、
コトニナルノダ、「なる」のテンス

◆ABSTRACT

This article illustrates the actual usage of the phrase "KOTO NI NARU" in written language. The results support (1) The usage which expresses "development of the fact" and "determination of the schedule" is used most often. (2) On each usage, certain characteristic relating to words preceding "KOTO NI NARU" can be seen. (3) As for forms following "KOTO NI NARU", compared to spoken language, the appearance rate of "WAKEDA" is extremely low while the "NODA" is high. (4) The usage which expresses "determination of the intention" is often introduced in Japanese language education, however that is not so often used in written language.

◆KEY WORDS

Kotoninaru, determination of the intention,
Kotoninaru Noda, the tense of "naru"

An Investigation and Analysis of
the Phrase "KOTO NI NARU"
in Written Language - Suggestions
for Japanese Language Education

CHEN XIUYIN

1 本稿でのコトニナルの意味用法と研究対象

コトニナルに関する先行研究はそれほど多くないが、意味用法について考察したものとして、森田・松木（1989）、高橋（1993）、安達（1997）、柏崎（2003）、光信（2003）、鈴木（2017）などがある。本稿ではコトニナルの使用実態調査を目的とするため、コトニナルの意味用法の検討には深く踏み込まず、コトニナルの用法を網羅的に整理している鈴木（2017）を参照し、調査を行う。鈴木（2017）の分類をまとめると、以下の表1のようになる（出典の記載がない用例は鈴木（2017）の作例である）。

表1 鈴木（2017）におけるコトニナルの意味用法の分類^[注1]

			説明	テンス・アスペクト	
A	A-1	A-1-1 予定の決定	Pを（将来）真とすることが（何者かによって）決定される。 (1) あのときの会議で九月に解散することになった。（高橋1993） (2) 来週の会合は山田が出席することになっている。	P：ル、テイル形 主文：自由	
		A-1-2 規則・きまりごと	規則、きまりごとにおいてPが真であるべきだとされる。「ことにされている」とは言い換えが可能である。 (3) 当時の規則では毎年点検を行うことになっていた。	P：ル形 主文：テイル、テイタ形	
		A-1-3 特定領域での事態認定	他者の認識や記録・記憶などある特定の領域においてPが（事実とは関係なく）真であるとされる。 (4) a 家では出張に行ったことになっているが、実は友達と旅行に行っていた。 b 家では出張に行っていることになっているが、実は友達と旅行に行っている。 c 家では出張に行くことになっているが、実は友達と旅行に行くのだ。	P：タ、テイル、ル形 主文：自由	
		A-2	A-2-1 論理的帰結	ある論理的な筋道にしたがえば「P」が真であると認定される。 (5) 今ここで働いている工員は約千人だが、この工場は一日三交代制だから、実際にはもっとおおぜいの工員がいることになる。（森田・松木1989）	P：自由 主文：ル形
			A-2-2 ある視点からの事態把握	ある物の見方では「P」が真であると言うことができるとされる。 (6) この本を旅行案内書として見れば、情報不足の役に立たない本であることになるが、文学作品として見れば、また別の評価ができる。	P：自由 主文：ル形
			A-3 主体意図を離れた事実化	現実世界における他者認識や世の中の判断として、「P」が（事実がどうであるかとはいったん離れて）真であると認定される。 (7) できませんと言ったら、自分の無能力を認めたことになってしまふ。	P：自由 主文：ル、タ形
	B 事実の展開		「なる」以前には成立していなかった事態Pが「なった」時点で成立することを表す。 (8) a 人員削減が行われた結果、多くの人が職を失うことになった。 b 人員削減が行われれば、多くの人が職を失うことになるだろう。	P：ル形 主文：自由	

表1のように、まず大きくAタイプとBタイプに2分され、「Bタイプでは「Pことになる」と言うことと「P」と言うこととの間に本質的な違いは無い」とされている。本稿ではこの観点に基づいて、コトニナルを省略しても、文の意味とニュアンスがほとんど変わらないものをBタイプと見なす。そして、鈴木（2017）を参考にして、「「予定、規則・きまりごと、ある領域での事態認定」が何者かによって新たに決定づけられる」ものをA-1タイプとし、「既に存在する「論理法則、特定のものの見方」などに従えば、言わば自動的、必然的に「P」という内容が真であると認定される」ものをA-2タイプとする。また、「A-3 主体意図を離れた事実化」はA-1タイプとA-2タイプの中間的なものであり、「既に存在する「社会のきまりごとや常識」などに従って言わば自動的に「P」という内容が真とされる」点ではA-2タイプと同様であるが、「主文の「なる」はル形をとって未来や恒時を表し、ときにはタ形をとって過去のことを述べることもできる」点ではA-1タイプと同様の性格を持つ。

なお、「{とんでもない／大変な／こういう／数年前の} ことになる」のような「[名詞修飾語＋こと]になる」は本稿の研究対象から外す。この場合の「こと」は先行する部分と結びつき、全体が1つの名詞句として文中で機能していると考えられるためである。また、「こととなる」は、「ことになる」と似た意味機能を持っているため研究対象に含め、合わせてコトニナルと表記する^[注2]。

2 調査方法と調査結果

BCCWJ（NT2.2.0）の「国会会議録」を除く全データを対象にして^[注3]、中納言を用いて短単位検索を行った。検索方法は以下のとおりである。[キー：語彙素＝成る，品詞＝動詞－非自立可能，前方共起（キーから1語）：語彙素＝に，品詞＝助詞－格助詞，（キーから2語）：語彙素＝事，語彙素読み＝コト，品詞＝名詞－普通名詞]。この検索方法で検索した結果、「ことになる」の例を38,479例得た。さらに、語彙素の部分で「前方共起（キーから1語）：語彙素＝と」に変えて検索を行い、「こととなる」の例を3,612例得た。得られた全用例（42,091例）から手作業で研究対象になるコトニナルを39,096例^[注4] 採集した。〈ジャンル〉^[注5] 別の出現数と100万語単位の出現数を表2に示す。

表2 〈ジャンル〉別の出現数

分類	総語数	出現数	100万語単位
文学	20139268	6970	346.1
文学以外	42533142	23860	561.0
雑誌	4444492	1216	273.6
新聞	1370233	296	216.0
白書	4882812	1379	282.4
広報誌	3755161	609	162.2
法律	1079146	273	253.0
教科書	928448	214	230.5
韻文	225273	10	44.4
知恵袋	10256877	2205	215.0
ブログ	10194143	2064	202.5
総計	99808995	39096	391.7

表3 多く現れた4つの用法の前接語の上位10位

A-1-1 (S : 2390)		A-1-2 (S : 526)		A-2-1 (S : 685)		B (S : 3621)	
という	6.3%	行う	13.9%	という	32.6%	という	11.7%
する	5.2%	という	5.1%	する	2.0%	する	1.6%
行う	4.4%	できる	4.8%	ある	1.3%	受ける	1.5%
行く	4.1%	実施する	3.6%	受ける	1.3%	該当する	1.4%
実施する	1.5%	する	2.1%	出す	1.0%	行う	1.4%
受ける	1.3%	受ける	1.9%	行う	0.7%	与える	0.9%
結婚する	1.3%	支給する	1.5%	上昇する	0.7%	失う	0.7%
付き合う	0.8%	定める	1.3%	増加する	0.7%	できる	0.7%
働く	0.8%	負担する	1.3%	できる	0.7%	持つ	0.7%
開催する	0.8%	発効する	1.1%	搬送する	0.7%	かける	0.6%
C : 26.3%		C : 36.7%		C : 41.9%		C : 21.2%	

表2に示した〈ジャンル〉のうち、「文学」「文学以外」「知恵袋」「ブログ」の4つの〈ジャンル〉は特に用例数が多いため、それぞれ1,000例をランダムにピックアップした。以下では、このようにして得られた合わせて7,997例のコトニナルを意味の面と形式の面から整理する。

まず、意味の分布を見る。鈴木（2017）の分類に照らし、用法分類した。各用法の全体の出現状況及び〈ジャンル〉別の出現状況を図1に示す。

図1のように、全体から見れば「B 事実の展開」用法が半分程度を占めている。そして、〈ジャンル〉別を見ると、ほとんどの〈ジャンル〉において「B 事実の展開」が最も多く用いられているが、「ブログ」と「新聞」では「A-1-1 予定の決定」が最も多く現れている。それは〈ジャンル〉の性質に関連していると思われる。「ブログ」では個人的な体験や日記を記録するにあたり、決定されたこと、あるいは個人的な意志で決めたことを婉曲的に表現しようとする場合にコトニナルで述べる人が多いと思われる。「新聞」では事件や政治、経済、芸能の動向などのニュースを報じるメディアであるため、「A-1-1 予定の決定」を表すコトニナルが多用されていると考えられる。

次に、形式（前接と後接）の面から整理する。コトニナルの前接語に関しては、動詞が圧倒的に多く接続することと、陳（2018）で明らかになった、コトニナ

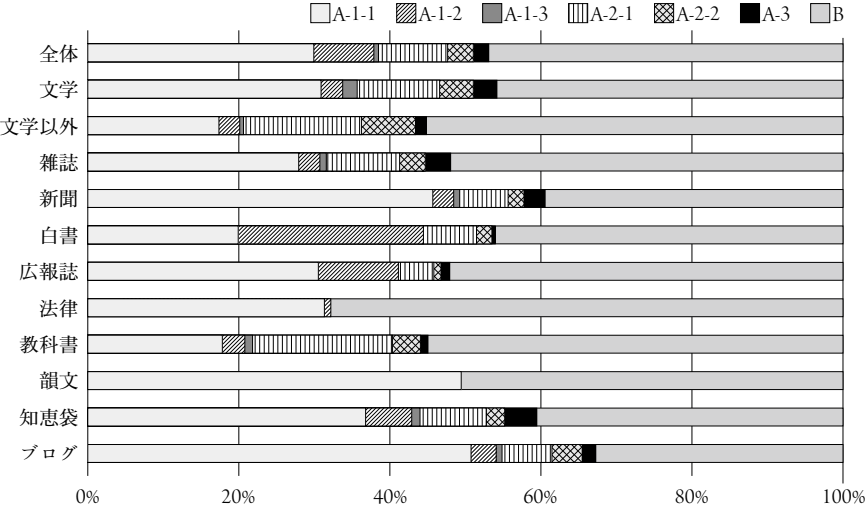


図1 各用法の全体の出現状況及び〈ジャンル〉別の出現状況

ルの前に「という」が多く用いられることを踏まえ、コトニナルに前接する動詞と「という」の出現率を整理する。具体的には、図1で明らかになった、コトニナルが多く用いられる4つの用法の例について前接動詞と「という」の出現状況を整理し、上位10位を前のページの表3に示す^[注6]。各用法の「動詞・という」文の総出現数（S）と上位10位の語のカバー率（C）も示す。

表3から、それぞれの用法に特徴的と言えるものがあることがわかる。「A-1-1 予定の決定」は「結婚する」「付き合う」「働く」のようなプライバシーに関わる出来事を表す動詞が、「A-1-2 規則・決まりごと」は「支給する」「負担する」のような政府の政策、規則などの正式的な文書で使われやすいものが目につく。また、「A-2-1 論理的帰結」は「という」の出現率が圧倒的に多いことと「上昇する」「増加する」といった数量に関わる動詞が多く使われている。「B 事実の展開」に関しては、「該当する」「失う」が上位に出現している。また、表3の最後の行に示したように、いずれの用法でも、上位10位の語のカバー率は高くないことがわかる。中俣（2015）の「初級文法項目の生産性指数のランキング表」

からもわかるように、コトニナルは初級文法項目のうち、生産性が高い順位の4位である。つまり、コトニナルの前に現れる動詞は種類が多く、簡単にどのコロケーションを覚えればよいとは言いがたいということである^[註7]。しかし、本稿のように用法ごとに整理することによって、日本語教育現場でどの用法をどのような動詞文で教えればよいかはある程度明らかになった。

次に、〈ジャンル〉別・後接形式別の出現状況を図2に示す。

図2からわかるように、「法律」では「名詞」、「韻文」では「モダリティ形式」が最も多く現れているが、そのほかの〈ジャンル〉では「言い切り」が最も多く出現しており、それほど目立つ特徴は見られない。

最後に、鈴木（2017）は表1の右欄のようにコトニナルの「なる」のテンス・アスペクトの出現状況を用法ごとに示している。検証するために、本稿で採集した7997例の「なる」のテンス・アスペクトを図3のように整理した。

図3に示したように、「A-1-1 予定の決定」は「なった」、「A-1-2 規則・きまりごと」「A-1-3 特定領域での事態認定」は「なっている」、ほかの4つの用法は「なる」が最も多く現れたことがわかる。A-1、A-3、Bタイプのテンス・アスペクトに関しては特に付け加えることがないが、A-2タイプについては再検討する必要があると思われる。鈴木（2017）では「A-2-1 論理的帰結」と「A-2-2 ある視点からの事態把握」の「なる」のテンスはル形のみであると主張しているが、今回の調査ではタ形も出現していた。

以上、調査結果をまとめた。次の3節では調査結果を踏まえ、用例を詳しく考察する。

3 用例の考察

3.1 「意志的な予定の決定」用法について

図1からわかるように、いずれの〈ジャンル〉においても「A-1-1 予定の決定」用法は少なくなく、全体の30%以上を占めている（7997例中2,435例）。それらの例のうち、「結婚することになった」のような、話し手が自らの意志で決めたことでありながら、「する」の代わりに「なる」を使うものがある。本稿では

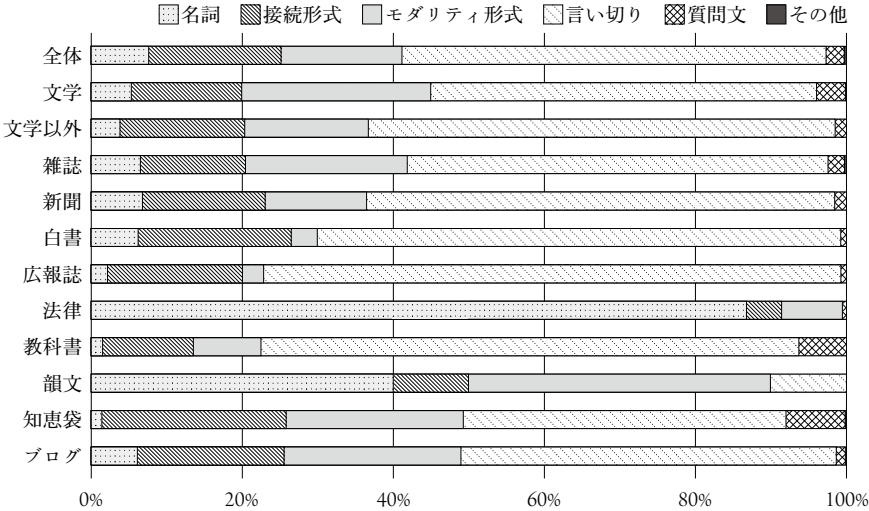


図2 〈ジャンル〉別の後接形式の出現状況

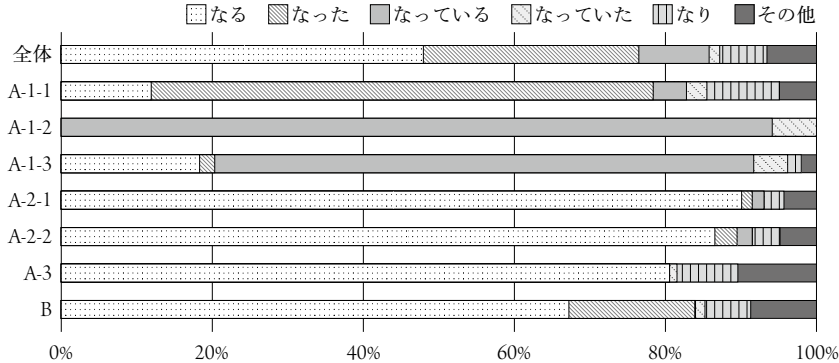


図3 意味用法別の「なる」のテンス・アスペクトの出現状況

このような用法を「意志的な予定の決定」と呼ぶことにする。このような例は、今回の調査で「A-1-1 予定の決定」のうち、9.3%（2,435例中227例）にあたる。さらに、〈ジャンル〉の内訳を見ると、図4のとおりである。

図4のように、「知恵袋」「ブログ」で最も多く現れている。以下のような例が挙げられる(9)(10)は「知恵袋」、(11)(12)は「ブログ」の例である。

- (9) 妻と二人で明日映画に行くことになりました。
- (10) 来年、引越しすることになり、条件にピッタリの賃貸マンションが決まりました。
- (11) 「恭弥、私ね 結婚することになったの。」
- (12) 明日仕事が遅くなったらブログ休むことになります。

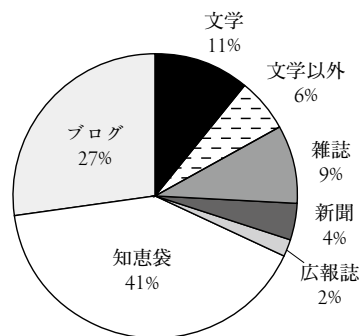


図4 「意志的な予定の決定」の〈ジャンル〉の内訳

「意志的な予定の決定」のコトニナルの前に来る動詞について、しばしば典型例として挙げられるのは「結婚する」である。今回の調査では「結婚する」のほかにも様々な動詞が現れており、すべて意志動詞であった。そのうち、多く現れたものの上位3位と出現率は、「行く」13.7% (227例中31例)、「結婚する」7.5% (17例)、「引越しする (引越す)」5.7% (13例)ということがわかった。こうした言い方には、話し手が自らの意志で決断したことであるものの、それは「誰かによって」そう「決められた」とする受け止め方のあることを示している。「なる」を使うのは個人的な「意志を表現することを避けようとする心理に基づいて」(庵他 2000) おり、「知恵袋」と「ブログ」のようなプライバシーに関わることを相手に一方的に説明する場合に用いられやすいと考えられる。

以上、「意志的な予定の決定」用法は日本語教育現場でしばしば導入されるが、日本語母語話者にそれほど多く用いられていない(「A-1-1 予定の決定」のうち、9.3% (2,435例中227例)にあたる)ことが今回の調査で明らかになった。そのため、ほかの用法(「A-2-1 論理的帰結」など)を優先したほうがよい。説明を加えるにしても、「A-1-1 予定の決定」の例として、「行く」「結婚する」「引越しする」の例を提示するぐらいで十分ではないかと考える。

3.2 コトニナルの後接形式の特徴について——コトニナルノダに注目して

図2に〈ジャンル〉別・後接形式別の出現状況を示したが、それほど目立つ特徴が見られなかった。そのため、3.2では話し言葉との比較をすることで、書き言葉におけるコトニナルの後接形式の特徴を明らかにしたい。陳 (2018) の調査では、あらたまった話し言葉では「コトニナルわけだ」が多く現れていたが(13.9%)、くだけた話し言葉では、「わけだ」の代わりに「のだ」が多く使われる傾向があることがわかった。ところが、BCCWJにおけるコトニナルの後接形式では「わけだ」の出現率は極めて低く、全体の約0.8%にすぎないのに対し、「のだ」の出現率は全体の約6%であった。つまり、話し言葉に比べ、書き言葉のコトニナルの後接形式では、ノダが特徴的である。そこで、これからはコトニナルノダに注目し、その使用実態について調査・考察を行う。

ノダは共起する形式によって様々な用いられ方が存在するが、ここでは平叙・現在時・言い切りのノダと従属節のノダに限定して観察する。この2点に関して、まず、本稿の立場を次の(13)(14)に示す。

- (13) 平叙・現在時・言い切りのノダの意味用法を《告白・教示・強調》《決意・命令》《得心・再認識》という3種に分ける。(陳 2017)
- (14) 従属節のノダは「ノダ {が・けど・けれども}」を、「ノダガ」と総称する。「逆接」と「前置き」の2種の意味用法がある。なお、言い淀みを表す「ノダガ。」はここに含めない。

まず、「コトニナル+平叙・現在時・言い切りのノダ」について考える。収集した例のノダを(13)の3種の用法に分類した結果、すべての例(198例)が「聞き手に伝える」《告白・教示・強調》を表していた。次のような例である。

- (15) 近いうちに全身の筋肉の測定をしてもらうことになったの。
(Yahoo! ブログ, 2008)
- (16) 昨年冬の冬に県で調査された結果では、県内6か所の水田において、10a当たり平均で約二百kgのヒコバエが食べられていました。1頭のシカ

が1日に3kgの草を食べるとすると、1枚の田んぼで実に2～3か月分のエサを賄っていることになるのです。

(広報誌 滋賀県甲賀市『広報あいこうか』2008年17号)

- (17) このことによってリコーダーは、ヴァイオリンなどと並ぶ重要な独奏楽器としていっそう活躍することになったのです。

(教科書 浦田健次郎ほか『中学生の器楽』2005, 教育芸術社)

(15)～(17)はそれぞれ「A-1-1 予定の決定」「A-2-1 論理的帰結」「B 事実の展開」を表す例であるが、コトニナルに後接するノダは、いずれも「聞き手に情報を提示する」《告白・教示・強調》としての意味機能を果たしている。一方、(18)のような「話し手が受け止める」《納得・再認識》を表すものも考えられるが、今回の調査では現れなかった。

- (18) A: 担当者はいろんなゲストを招いて、ガンガン大音響を使って「こ
んだけやっても大丈夫な劇場だ」と。その後も皆いろんな使い方を
するようになって。

B: なるほど。だから最初5年間だけと言われていた劇場が、18年も続
くことになったんだ。(作例)

次に、従属節のコトニナルノダガ(96例)について見てみよう。〈ジャンル〉別、「ノダガ」意味用法別の出現状況は図5のようになっている。

「知恵袋」で最も多く、次に多いのは「ブログ」である。また、用法の分布を見ると、「知恵袋」においては、「逆接」と「前置き」がそれぞれ50%程度を占めているが、「ブログ」においては「逆接」(80%)が「前置き」(20%)より圧倒的に多いことがわかる。スペースの都合でここでは図示しないが、いずれの〈ジャンル〉でも、「A-1-1 予定の決定」用法が最も多く、コトニナルノダガの96例の中に63例あり、65.6%を占めている。以下は用例数が最も多い「知恵袋」と「ブログ」の例を用いて考察する。「知恵袋」には、(19)～(22)のような例がある。

- (19) パートで働くことになったのですが、もし年収が百三万円こえた場合

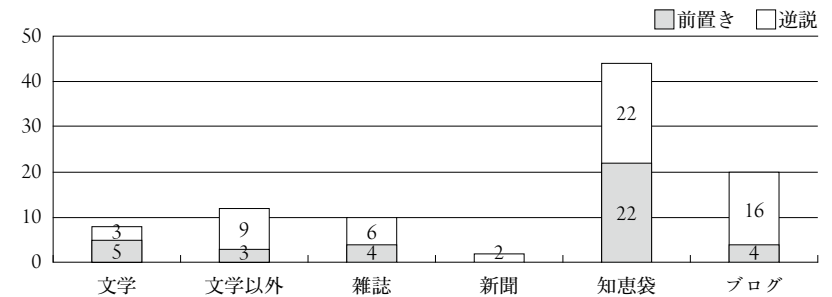


図5 〈ジャンル〉別・「ノダガ」意味用法別の出現状況

どうなるのでしょうか？

- (20) この度引越しをすることになったのですが、電車の定期券の払い戻しは何ヶ月前まで可能なのでしょうか？
- (21) 今年の4月から働くことになったのですが、疲れが出たためかここの一週間ほどで急に体のあちこちが調子悪くなって、仕事を続けられるか心配になりました。
- (22) 来月、高校時代のクラス会をする事になりました。そこへ担任だった先生も来るので、皆でお金を出し合って何か記念品を贈ろうという事になったのですが、何が良いのか案が浮かびません。

(19) (20) のノダガは「前置き」、(21) (22) のは「逆接」を表す例であるが、その前に来るコトニナルはいずれも「A-1-1 予定の決定」を表している。このような例は「知恵袋」において、86.4% (44例中38例) を占めており、上で述べた総出現率の65.6%より高いことがわかる。このことは、話し手(質問者)はコトニナルノダガを用いて、自分自身の事情(特に「A-1-1 予定の決定」)を説明し、後文脈の質問や悩みなどを導き出すという「知恵袋」の〈ジャンル〉の特性に関連していると考えられる。

次に「ブログ」の例も見る。(23)～(25)が挙げられる。

- (23) もう1人いた友達は今日バイトが午後からでお泊りすることになった

んですが、私は午後出だったものの、間に合うように起きることを考え、結局朝方に朝帰り。

(24) 保育参加の際は、自分の子以外と遊ぶことになっているのだが、やはり私がいるとめんどろ、まわりついてきちゃうし。

(25) 以前に話題になった、低インシュリンダイエットの観点で言うなら食事前のヨーグルトは、効果大！（中略）急激に血糖値の上昇が起こった場合、血中のインシュリンが増えて糖質を脂肪細胞へと蓄えることになるのですがヨーグルトなどの乳製品を摂取することにより、その結果血糖値の急激な上昇を抑えることになり、糖質が脂肪細胞へと運ばれることを防ぐことになるからです。

(23) ～ (25) のコトニナルはそれぞれ「A-1-1 予定の決定」「A-1-2 規則・きまりごと」「B 事態の展開」を表しているが、コトニナルに後接するノダガはいずれも「逆接」用法である。すでに言及したが、「ブログ」におけるコトニナルノダガのノダガは「逆接」が80%を占めていた。それも「ブログ」の〈ジャンル〉の特性に関係すると思われる。野田(1997)は「が」に比べ、「のだが」は「従属節の内容から予想される順当な事態が生じなかったことに対する意外性や不満が多少強く示され」、「のに」に近い性質をもっているようであると述べている。(23)は「友達はお泊まりする」が、「私は朝帰りだった」という意外性を、(25)は一般的に言うとき食事するときに「急激に血糖値の上昇が起こった場合、血中のインシュリンが増えて糖質を脂肪細胞へと蓄える」ことになるが、「ヨーグルトなどの乳製品はそれを防ぐ」ことができるという意外性をノダガで表す。(24)は「自分の子以外と遊ぶルールがある」が、「親がいると自分の子がどうしてもついてきてしまう」という「やや不満」の気持ちをノダガで表す。「ブログ」は覚え書きや論評などを加えて記録するウェブサイトの一種であり、日記のような内容が多い。そのため、毎日のように起こる平凡な出来事より、書き手が予想していなかったことや、面白がっていることなどが記録されやすいため、「逆接」用法のノダガが多いと考えられる。

以上、「コトニナル+平叙・現在時・言い切りのノダ」のノダはコトニナルの意味用法と関係なく、「聞き手に情報を提示する」《告白・教示・強調》用法

を表すという使用実態が明らかになった。また、従属節のコトニナルノダガに関して、「知恵袋」においては、話し手（質問者）はコトニナルノダガを用いて、自分自身の事情（特に「A-1-1 予定の決定」）を説明し、後文脈の質問や悩みなどを導き出す。「ブログ」においては、コトニナルの用法と関係なく、「逆接」を表すノダガが多い。その理由は「ブログ」では、予想していなかったことや、面白がっていることなどが記録されやすいからだと考えられる。

3.3 A-2タイプの「なる」のテンスについて——鈴木（2017）の検討

図3に示したように、今回の調査で「なる」のテンスについて、鈴木（2017）の主張と異なった結果が見られた。3.3ではその点について詳しく考察する。

コトニナルのテンスについて、鈴木（2017）のほか、高橋（1993）、光信（2003）でも論じている。高橋（1993）はコトニナルに前接する事柄の述語のテンスを第1テンス、コトニナルのナルのテンスを第2テンスと呼び、ダブルテンスのあり方に焦点を当てており、ダブルテンスのパラダイムのあり方が用法の違いを反映していると指摘している。その立場を受けた上で、光信（2003）は「ダブルテンスのあり方の違いがどのように構文上の違いとして現れ、用法を区分する観点となるのか」について考察を行い、スルコトニナルの用法を5つに分けている。このように、コトニナルの第1テンスと第2テンスがコトニナルの用法分類に大きな影響を与えている。

本稿で参照した鈴木（2017）は上の2つの先行研究と異なる立場から分類し、さらにPと主文のテンス・アスペクトについて表1の右欄のように主張している。しかし、A-2タイプの主文のテンスについて、今回の調査では鈴木（2017）と異なる結果が見られた。A-2タイプに関して、鈴木（2017）は「A-2-1 論理的帰結」を表すコトニナルの主文は「ル形をとり、そのような帰結が発話時得られたという場合にのみ用いられる」「A-2-2 ある視点からの事態把握」も同じである」と主張している。ところが、(26)と(27)のような反例がある。

(26) 刷り部数は、三十五万部の大部数だったため、熟練した三百余人の男女工が、三昼夜ブッ通しで裁断と折りたたみをして、ようやく発刊にこぎつけた。さらに、これを三台の自動車で大阪駅や外の駅に発送し

たが、一台に換算して実に二百三十回のピストン輸送をしたことになった。活字メディアの分野に、週刊誌が加わったことは、新聞の紙面づくりに少なからぬ影響をもたらしたようだった。

(文学以外、塩澤実信『花田家三代血の証明』2003、展望社)

(27) スナオさんは相当弱いみたい。チョコ好きだからってチョコパイをあげたら、それはお酒の匂いがするって言うくらいダメらしい。(中略)でもある意味そんな少しのお酒で酔えるなんて燃費がいいよねってことになったけど、そういう考え初めて聞いたわ。(Yahoo!ブログ, 2008)

(26) (27) はそれぞれ「A-2-1 論理的帰結」と「A-2-2 ある視点からの事態把握」を表す例である。(26) では「三十五万部を三台の自動車で発送した」ことから、「一台は二百三十回のピストン輸送をした」という結論に至り、「ことになった」を用いて表す。(27) では「スナオさんはお酒が弱くて気の毒」という一般的な理解に対して、「そんな少しのお酒で酔えるなんて燃費がいい」という見方もできるということを、コトニナルで表す。「初めて聞いた」という後文脈から、発話時以前のある時点で、誰かによってある考え方が提出され、そして現在話者(書き手)がその考え方について述べているというふうに取り取れる。そのため、「ある見方から事態を捉え直す」時点は発話時現在とは限らず、発話時以前である場合もある。そうした場合はタ形になる。このように、A-2タイプの文末は少ないけれどもタ形になる場合がある。

また、安達(1997)では「論理展開における結論の表示」(本稿の「A-2-1 論理的帰結」)を表すコトニナルは「発話時における話し手の結論を示すモダリティ形式化したものとして位置づけることも可能であろう」と指摘しているが、(モダリティを話し手の発話時の心的態度を表す表現として捉えれば)モダリティ形式化していると言えるのは文末がル形の場合だけであり、文末がタ形の場合には、モダリティ形式化しているとは言えない。今回の調査でこのような例は、1,002例「A-2」を表すコトニナルのうち18例あり、1.8%にあたる。

以上、A-2タイプ(「A-2-1 論理的帰結」と「A-2-2 ある視点からの事態把握」)の「なる」のテンスはル形に限らず、タ形を用いることも可能である。

4 おわりに

以上、BCCWJで採集した用例(7,997例)を意味の面と形式の面から検討し、考察した。結果をまとめると、以下の4点になる。

- 1) 書き言葉において、コトニナルは「B 事実の展開」と「A-1-1 予定の決定」用法が最も多く現れたことから、日本語教科書で用法説明する際、この2つの用法を提示することが望ましい。
- 2) コトニナルは生産性が高い文法項目とされているが、用法ごとに多く用いられる語の特徴が見られ、例文提示する際に参考にできる。
- 3) 後接形式にはそれほど特徴と言えるものがない。ただし、話し言葉に比べてワケダの出現率が極めて低く、ノダの出現率は高い。例文提示する際に、会話文で導入するか読解文で導入するかによって注意する必要がある。
- 4) 日本語教育でしばしば導入される「意志的な予定の決定」用法はそれほど多く用いられていない。ほかの用法を優先するか「行く」「結婚する」「引越す」の例を提示するぐらいで十分ではないと思われる。

〈日本経済大学／神戸大学大学院生〉

注

- [注1] …… 「ル、テイル形」というのは、「P」はル形ないしテイル形しか使えないという意味、「自由」というのは制限がないという意味である。
- [注2] …… 今回の調査では、「こととなる」はBCCWJの「法律」と「白書」で多く現れ、特に「法律」におけるコトニナルの例の99.1%は「こととなる」であることが特徴的である。そこから、法律や白書のような公的で、非常に硬い文体では「こととなる」のほう好まれているということが言える。
- [注3] …… 「国会会議録」は話し言葉に近いと考えられ、今回の調査対象から外し、話し言葉のデータとして扱い、陳(2018)で考察した。
- [注4] …… 42,091例から「[名詞修飾語+こと]になる」と考えられるものを2,995例除外した。その内訳は、①指示詞(こういうことになる)952例；②形容詞(大変なことになる)1,406例；③名詞句(最近のことになる)623例；④文頭で

現れる「という」(〜こういうふうと考えております。ということになりますと) 8例; ⑤誤解析(〜することになれてないんです) 6例である。

[注5] ……… 本稿は野田編(2016)を参考にし、検索して得られた実例を11の〈ジャンル〉に分ける。〈ジャンル〉は基本的にはBCCWJにおけるレジスターに該当するが、そのうち「書籍」と「ベストセラー」は統合した上でBCCWJにおけるジャンルに基づいて「文学」と「文学以外」に分ける。

[注6] ……… 中俣(2014)では「そういうことになる」のような「指示詞+ことになる」の例も対象として扱っており、「言う」の例としてカウントしているが、本稿では研究対象から外した。また、中俣(2014)は「言う」は「ということになる」の形がほとんどである」と説明しているが、本稿では「言う」と引用を表す「という(と言う)」とは別のものとしてカウントした。

[注7] ……… 生産性とは、その項目がどれだけ多くの動詞と結びつくかという指標で、出現数と動詞の種類の数から算出される。これが低いものは、よく使うものを丸覚えしたほうがよいということになる(中俣2014:9)。

参考文献

- 庵功雄・高梨信乃・中西久美子・山田敏宏(著)松岡弘(監修)(2000)『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 安達太郎(1997)「『なる』による変化構文の意味と用法」『広島女子大学国際文化学部紀要』4, pp.71-84. 広島女子大学
- 柏崎雅世(2003)「こと 3. ことにする 4. ことになる」吉川武時(編)『形式名詞がこれでわかる』pp.63-84. ひつじ書房
- 鈴木義和(2017)「『Pことになる』形の文について」『国文論叢』52, pp.1-16. 神戸大学国語国文学会
- 高橋太郎(1993)「ダブルテンス研究のすすめ」『立正大学国語国文学』29, pp.1-6. 立正大学国語国文学会
- 陳秀茵(2017)「平叙のノダの意味用法について—吉田(2000)への検討を通して」『第五回中・日・韓・朝言語文化比較研究国際シンポジウム』8月19日, 於延辺大学(中国), 口頭発表
- 陳秀茵(2018)「話し言葉コーパスにおける「ことになる」の使用実態について」『計量国語学』(31-5), pp.323-337.
- 中俣尚己(2014)『日本語教育のための文法コロケーションハンドブック』pp.48-49. くろしお出版
- 中俣尚己(2015)「初級文法項目の生産性の可視化—動詞に接続する文法項目の場合」『計量国語学』29(8), pp.275-295.
- 野田春美(1997)『「のだ」の機能』くろしお出版
- 野田春美(編)(2016)『日本語のモダリティのコーパス調査報告—『現代日本語文法』の記述の検証』p.1. 学術研究助成基金助成金研究成果報告書
- 光信仁美(2003)「複合述語形式「スルコトニナル」の用法について—ダブルテンスの観点から」『日本語教育』116, pp.49-58.
- 森田良行・松木正恵(1989)『日本語表現文型』アルク